

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立松江中学校

(平成31年2月12日作成)

1 学校教育目標	
㊦ 学ぶ意欲のある生徒 (かしこく) 知 ㊧ 強い心と体をもつ生徒 (たくましく) 徳・体 ㊨ 笑顔あふれる生徒 (あたたかく) 和・輪	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
1 教師ひとりひとりの授業力の向上 (興味関心を高める導入の工夫、読解力の向上、学びを深める工夫) 2 集団生活を通じた豊かな人間性の育成 (子どもが主体となった学校行事や生徒会活動・委員会活動の推進) 3 共感的な人間関係の育成 (生徒指導・教育相談体制の充実、道德教育の充実、特別支援教育の充実、命を大切にする授業) 4 教育環境の整備 (自己存在感が得られる教室掲示、読書環境の充実) 5 「幼保小中を一貫した教育」の推進	○学校教育目標、目指す学校像を意識した教育活動が推進され、一定の成果を上げた。 ○生徒指導上の様々な問題に対し、職員一人一人の共通理解と組織的対応により、粘り強く指導し、改善が図られた。 ○新学習指導要領に向けての研修を繰り返し行い、平成30年度がスムーズにスタートできるよう教職員の共通理解を図った。 ●「幼保小中を一貫した教育」をさらに推進する。 ●開かれた学校づくりを目指すため、学校行事への参加、環境整備事業への協力等、子ども達とともに育てる意識を高めることにより学校・家庭・地域との連携をさらに強化する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	- 学校経営目標、方針 - 校務分掌組織 - 適所への適材配置 - 職員会議等の運営 - 予算の執行・決算・監査等	A	○学校教育目標を意識した教育活動が進められた。 ○企画委員会、職員会議や各種会議が適切に行われていた。 ○校務分掌組織の見直しを進めた。
	②研究・研修	- 研究組織、計画、実施 - 校内研修の推進 - 授業改善への取組 - 校外研修会への参加 - 人材育成	A	○幼保小中を一貫した教育を推進するために、小中学校で授業を相互に参観したり、指導案検討会や研究授業を実施し、教職員の授業力の向上を図った。 ●来年度も幼保小中で連携し、指導案検討会や研究授業が継続して行われるようにする。
	③保健管理・安全管理	- 保健計画、安全計画 - 環境衛生の管理 - 健康観察、安全点検 - 緊急事態発生時の対応 - 危機管理マニュアルの作成・活用	A	○健康観察や校内の衛生管理等が適切に行われた。 ○危機管理マニュアルを活用し、充実した訓練が実施された。 ○9月～12月の期間、毎月1回抜き打ちショート訓練を実施した。 避難がスムーズに行えるようになった。
	④情報管理・施設設備管理	- 個人情報の管理、保護 - 施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の管理、保護は、ほぼ適切に行われている。 ○点検活動や修繕等、積極的に進められた。 ●学校の備品や職員の机上の整理整頓をさらに徹底する必要がある。 ●ハトの糞等の対策が大きな課題である。
	⑤地域との連携・開かれた学校	- 学校情報の発信 - 学校公開の実施 - 学校評議員の活用 - 地域・校種間連携 - PTA活動の活性化	B	○学校公開やフェスティバル開催等、PTAや地域との連携により開かれた学校づくりが推進できた。 ○学校だよりを充実させたり、学校のホームページを課業日に毎日更新して、情報を発信した。 ●家庭・地域との連携や地域の人材活用をさらに強めていく工夫が必要である。
	⑥幼保小中を一貫した教育	- 目指す子ども像の実現に向けた取組 - 教育課程の編成 - 一貫教育推進のための組織づくり	A	○小中合同研修会、部活動体験入部、小中相互授業参観、指導案検討会、研究授業、合唱交流、作品交流、幼保小中を一貫した教育の推進に関わる協議会を実施するなど充実した取組ができた。 ○今年度も小学校への乗り入れ授業を実施することができた。 ●次年度の取組について、幼保小と確認をする。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	B	○授業時間は確保され、教育課程の編成はおおむね適切である。 ○日々の教育実践の中で、目標や方針の周知を徹底させていくことが出来た。 ●移行期間における教育課程の編成や年間の行事配列を見直し適切に行う。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○板書の工夫やICTの活用などにより、生徒の興味関心を引き出す授業を心がけた。 ○校内研修では、授業参観期間を設け、授業について意見交換をする等、互いの授業改善に活かした。 ●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法の工夫を組織的に取り組み深めたい。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○道徳の時間においては、授業公開や研究授業を含め様々な取組を実施することができた。 ○授業実践の資料を活用した取組が実践されていた。 ●新学習指導要領の完全実施に向けて、評価の研修を深める。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	A	○本部、各専門委員会等、生徒の主体性を活かした様々な取組が効果的に行われた。 ○3年間を見通した年間指導計画をもとに、行事計画や集会計画を見直し、委員会活動の活性化つなげることが出来た。 ○新学習指導要領の完全実施に向けての取組が出来た。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫	A	○各学年において、体験的活動が計画的に実施された。 ○「命の大切さを学ぶ授業」など、3年間を見通した全体計画、年間指導計画の着実な実践が定着してきた。 ○新学習指導要領の完全実施に向けての取組が出来た。
	⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談、生徒理解 ・基本的生活習慣の定着 ・保健、地域、諸機関との連携	A	○基本的生活習慣の定着に向け、生徒の自主性を活かした積極的な指導が行われた。 ○教職員の共通理解のもと、組織的な指導体制の強化が図られた。
	⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集、活用 ・職場体験活動	A	○各学年において、体験的活動が計画的に実施された。 ○「社会体験」「上級学校訪問」など、3年間を見通した全体計画、年間指導計画の着実な実践がなされた。
	⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	B	○特別支援学級の設備も整い、円滑に運営されている。 ○支援が必要な生徒に対して、適切な支援体制ができた。 ●生徒・保護者の一人ひとりの願いや思いを大切にした支援について、今後も取り組みたい。
	⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	B	○学校司書との連絡が密に行われ、図書室の利用や読書週間、借りる冊数が多い生徒の表彰等への取り組みが積極的に行うことができた。 ●図書室の利用を授業や昼休み等において、利用しやすいようにさらに工夫していく必要がある。
	⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○授業でICT環境の活用を積極的に行っている。 ○情報モラルについて、集会やクラスで定期的に指導することができた。 ●全教員が機器を効果的に活用すべく、活用法についての研修を推進していく必要がある。
	⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○全教育活動を通じて、差別を許さない生き方を育て、お互いを認め合う態度を育てることができた。 ●校内研修で計画的に取り上げ、教職員の理解を深める。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づく り	確かな学力	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	B	○板書の工夫やICTの活用などにより、生徒の興味関心を引き出す授業を心がけた。 ○校内研修では、授業参観期間を設け、授業について意見交換をする等、互いの授業改善に活かした。 ●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法の工夫を組織的に取り組み深める。
	豊かな心	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳的实践力の育成 - 家庭、地域社会との連携	A	○道徳の時間等、日々の生活の中で様々な取組が実践できた。 ○授業実践の資料を活用し、工夫・改善が行われた。 ●新学習指導要領の完全実施に向けて、道徳科の評価の研修を深める。
	幼保小中を一貫した教育の推進	- 幼保小との連携 - 研究発表に向けた取組	A	○小中合同研修会、部活動体験入部、小中相互授業参観、指導案検討会、研究授業、合唱交流、作品交流、幼保小中を一貫した教育の推進に関わる協議会を実施するなど充実した取組ができた。 ○今年度も小学校への乗り入れ授業を実施することができた。 ●次年度の取組について、幼保小と確認をする。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学校教育目標、目指す学校像を意識した教育活動が推進され、一定の成果を上げることができた。
- ・生徒指導上の様々な問題に対し、職員一人一人の共通理解と組織的対応により、粘り強く指導し、改善が図られた。
- ・幼保小中を一貫した教育の取り組みにおいては、【推進するためにふさわしい組織】や【15年間を通じた教育課程の編成】ができ、また【目指す子ども像の共有】が図れ、成果をあげることができた。
- ・全体としては、良好であったが、「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」「思いやりの心」の育成の要望があった。

6 次年度の改善策

- ・学力向上に向け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法の工夫を組織的に取り組み、さらに深める。
- ・新学習指導要領全面実施に向けて、全教科・領域において、計画的に準備を行う。特に、道徳科の評価についての研修を深める。
- ・学力向上のキーワードとして「幼保小中を一貫した教育」を継続して取り組み、より充実させる。
- ・不登校や問題行動について、未然防止の観点で環境づくりと積極的な生徒指導を引き続き推進する
- ・開かれた学校づくりを目指すため、学校行事への参加、環境整備事業への協力等、子どもたちとともに育てる意識を高めることにより、学校、家庭、地域との連携をさらに強化していく。
- ・支援が必要な生徒に対して、適切な支援ができる体制を充実させる。